

実施内容報告書

支援先施設	国立病院機構いわき病院	実施分野	慢性呼吸器疾患看護
認定看護師	高木 勝平	所属施設	いわき市医療センター

目 標

- ・根拠を持って吸引することができる
- ・根拠を持って体位変換をすることができる

実施内容

回数 訪問日	実施内容	研修会テーマ	①支援内容 ②アンケートの意見等
第1回 7/31 (月)	施設内の案内 支援目標の確認 各病棟のラウンド カンファレンス 研修会の開催 次回の打ち合わせ	「聴診」 参加人数28名	①病棟ラウンドで各病棟の現状把握、情報収集を行なった。アドバイス、今後のケアの提案を行なった。研修会では「聴診は音を聴くだけでなく、アセスメントし、実際のケアに繋げることが重要である」ことを特に強調して説明した。またケアの前後のアセスメントが重要であることを伝える内容とした。 ②アンケートでは、聴診の理解が深まり、今後の業務に活かせるとの回答が多かった。
第2回 8/22 (火)	各病棟のラウンド カンファレンス 研修会の開催 次回の打ち合わせ	「吸引」 参加人数21名	①病棟ラウンドでは、前回アドバイスしたケアの評価を行い、改善点や変更点を病棟スタッフと検討した。研修会では、「吸引は非常に侵襲的な手技であるため、前後のアセスメントが重要になる」ことを強調して説明した。吸引以外の排痰ケアの選択肢をアセスメントできるように情報提供をした。 ②アンケートでは、「吸引の前提知識を知らなかったのが驚きがあり集中できた」などポジティブな評価が多かった。
第3回 9/20 (水)	各病棟のラウンド カンファレンス 研修会の開催 次回の打ち合わせ	「呼吸と体位」 参加人数19名	①病棟ラウンドでは、ケアの評価、再検討を行なった。呼吸アセスメント力の向上した例には継続を依頼した。研修会では「呼吸にとっての体位の重要性、看護師にとって体位調整が武器になること」を強調して説明した。 ②アンケートは「実用的でした」等、概ね高い評価であった。
第4回 10/17 (火)	各病棟のラウンド カンファレンス 研修会の開催 次回の打ち合わせ	「排痰ケアのまとめ」 参加人数24名	①ケアの評価と検討を行う。初回の支援から呼吸アセスメントが向上していると思われる例が増えたことを、言語化してスタッフへ伝えた。病棟スタッフからは、取り組んでいくスタッフを増やしていきたいとの希望が聞かれた。自己効力感の理論を説明して、スタッフ間でケアを共有していくことを提案した。研修では排痰の要素を説明し、そこから看護師にとっての体位変換の重要性、ケアの大切さを説明した。 ②アンケートでは「体位変換は看護師の強みであることを改めて認識した」など、ポジティブな回答が多かった。
第5回 11/13 (月)	打ち合わせ 成果発表会 反省会 病棟ラウンド 今後の打ち合わせ	「成果発表会」 参加人数18名	①成果発表会では、各病棟で「目標は達成できた」と発表があった。スタッフの自己肯定感を高めるためにポジティブフィードバックを行なった。反省会では支援全体の評価と今後の課題に対する提案、示唆を行なった。 ②アンケートでは、「成果が実感できた」「刺激となってモチベーションが上がった」など、動機付けに関連した回答が見られた。